



しみず ひろあき

清水 仁章 氏（49歳）吉備中央町で就農

～目指す農業経営～

（生涯を通して、自分の甲斐性で出来る仕事）

- 就農時期：令和3年4月
就農4年目
- 就農の型：大阪市から移住

- 品 目：簡易被覆ぶどう
- 経営面積：56a（自己36a）
- 経営参画者：本人、妻

○就農経緯

- ・前職では、将来に不安を感じ、見通しがつく職業として、農業を選択。
- ・自ら仕事と休日の時間を決めれること、高齢でもやれる仕事と判断し、就農を決意。

○事前準備

- ・情報収集のため、岡山などの産地見学ツアーや就農セミナー、オリエンテーションに何度（累計10回）も参加し、各産地を訪問・検討。
（平成29年～30年）

○研修内容

- ・体験研修（1ヶ月）：受入農家の下で、選果作業を中心に実施。
- ・実務研修（2年）：農業公社において、栽培技術全般を受講するとともに、収穫後の出荷などを実践。

新規就農から 1～2 年で苦労されたこと

○農地・住宅確保

- ・農地は、農業公社から研修ほ場（成園20a）を借入れるとともに、公社職員等に相談しながら（未成園36a）借入。
- ・住宅は、町の案内で、研修生用宿舎に入居し、研修終了後にネット情報を見て、中古住宅を購入。

○資金確保

- ・自己資金は、約800万円。
- ・融資は、約350万円。

○技術習得

- ・体験研修では、受入農家の下選果作業を中心に実施。
- ・実務研修では、栽培管理や剪定作業などの専門技術を習得。
- ・農業公社（150日/年）と農業大学校などの研修会（15回/年）に参加。

○販路確保

- ・JA出荷と個人販売。

○地域との関わり方

- ・地域の方々とのコミュニケーションとして、草刈り、消防団、祭り等に参加。また、近隣住民の懇親会（1回/月）に参加。

定着までの取り組み

○技術向上

- ・加茂川ぶどう部会の講習会を受けながら、栽培上の悩みを相談。

○農業経営（コスト削減）

- ・安価な肥料等資材を導入し、コスト削減を実施中。

○機械・施設整備

- ・機械は、部会や関係機関と相談し、防除機や乗用草刈り機、軽トラを自費で購入。
- ・施設は、ハウス張りや、イノシシ・サルの侵入防止柵を自分で設置。

○販路拡大

- ・JA出荷のほか、贈答用で販売。

就農を目指す人へ

- ・信頼関係の構築のため、地域とのコミュニケーションは必要。
- ・農作業には、一定の体力と忍耐力が必要。
- ・決めるまでの検討時間が大事であり、決断には勢いも必要。



「ほ場の全景」



「ぶどうの枝を管理」



「自らが設置した防鳥柵」



「自らが設置した侵入防止柵」